

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶたけしの子	・思い合える子ども ・自分を高めていける子ども	

今年度の重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 にここ交流 <笑顔でかかわり合える> ①つながりをつくる学級 安心できる人間関係づくり ②地域から学ぶ・地域の教育力を活用する。 ③健康、安全安心のための家庭・関係機関との連携	○なかよし学級との交流がたくさんでき、休み時間にも低高の組み合わせで遊ぶ姿が見られた。学年関係なく声をかけたがり遊んだりする姿がある。 ○地域の講師の先生方に支援していただき、子どもも一生懸命活動している。今後も受け継いでいきたい。 ●高学年女子で友達関係の悩みや不安を抱えている子が複数いる。対応はしているが、今後とも丁寧に係ってきたい。		・今後も、学級活動や児童会活動、仲良し学級との交流、縦割り清掃など、親しみ、教え合い、楽しみ合う活動を計画的に取り入れていく ・夏休みの研修で、Q-U研修を行い、学級集団の何をどう見て指導していかばよいか、アドバイスをいただいた。その助言を取り入れて実践を積み重ねる。 ・相談員と学級担任の連携、ときには家庭や外部機関とも連絡を取りながら相談体制の充実を図る。	
重点2 もくもく清掃 <心を磨く> ①自発性を育てる自問清掃 ②キャリア教育の推進 ③道徳教育・人権教育の充実 ④自分たちで作る児童会	○縦割り清掃で自問清掃がより充実し、1年生にも定着した。高学年がよいお手本になっている。 ●取り組みに個人差がある。 ○道徳の時間ではじっくり考える、自分自身と向き合う時間をとることができた。毎時間の学習プリントをファイルし学期のまとめとしても振り返ることができた。 ○子どもたちが計画した児童会イベントが満足感をもって行うことができた。		・15分間集中して清掃し続けることが難しい児童もいる。職員が声掛けをしたり、一緒に取り組んだりしていきたい。 ・計画的なキャリア教育・道徳教育・人権教育を実践していく。道徳についても個人の伸びをしっかりとみていきたい。 ・これからも児童のアイデアを生かした企画を計画・運営させていきたい。	
重点3 ばんばん学習 <わかる・できる・目が輝く> ①日々の授業の充実 3観点の授業展開・主体的・共同的な学び・TT支援や教科担任制・授業のユニバーサルデザイン化 ②基礎基本の定着 ③武石っ子運動の充実 元気アップタイムの実施 ④南部支会学校間連携	○どの学級でも学びの基本姿勢をつけながら日々の授業が充実するよう取り組んだ。2.3.4年の授業交換で子どもたちの意欲・学習への姿勢・単元テストでの定着は向上した。 ●2,3,4年のそれぞれの授業数に違いがあるので授業交換についてはそれが課題である。 元気アップの時間を1月スパンから日替わりにしたことで子どもたちは「今日は〇〇だ」と意欲的に取り組んでいる。 ○学年の実態に応じて自分たちで考え作り上げる交流会ができた。		・個の開きがあるので、補っていききたい。特別支援教育支援員を効果的に配置する。 ・少人数学習を取り入れた6年生保護者から「やっていただきよかった。」、児童からは「わからないことも言いやすくなった。」の記述あり。学力向上支援員の効果的活用をさらに考える。 ・元気アップタイムの時間を子どもたちが運動する楽しさを味わえ、なおかつ体力アップできるメニューを考えていく。 ・南部支会交流がその時だけのお楽しみの交流活動にならないよう、6年間を通した、つきたい力を明確にした交流活動にしていくようにする。	

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	総合評価				改善策・向上策
				A	B	C	D	
教育活動	体力向上	心身の健康と体力作り ・元気アップタイム等の運動で体力アップが図れたか。 ・メディアコントロールへの取り組みを継続しているか。	○元気アップの時間を毎日とった。曜日別の日替わりメニューにしたので、子どもたちは意欲的に取り組んでいる。 ○メディアコントロールを月1行っている。メディアを使用する代わりに外で遊んだり、お手伝いをする事で睡眠時間が早くなったというカードからの結果がある。		○			・体力テストの結果から元気アップで行う内容を考えていきたい。元気ももり以外のメディアコントロールデーをうまく連絡したり活用したりできなかったため、校内放送を活用する。 ・家庭との連携が欠かせない。学校保健委員会でも示唆されたことを全家庭に広めたい。
	学力向上	「4つの学び」の日常化	・武石の学びを支える基本的な学習ルールを定着を図り、4つの学びを授業の中で進めることができたか。	○教師自ら、机上の整頓をしたうえでチャイムで授業が始まる態勢にした。机上の整頓ができていない子に声をかけたり、低学年は一緒に整頓した。こころがけ行動している児童の姿もある。●学級差がある。			○	・学年、クラスによって差がある。 ・学習ルールを教師自身がしっかりと意識したい。 ・児童による自己評価もしながら、意識化させたい。
		自己表現する授業の実践	・学習課題を明確にし、子ども達自身が考え、さまざまな方法で自己表現する場面を設定できたか。	○じっくり考え、自分の考えを文章にまとめることができるようになった子が増えた。少人数で話し合いや発表、学級会での話し合いを設定しているが、個人差はある。			○	・数直線や図を使って考える時間や自分の考えを全員が聴きあえる場を増やす。 ・自分の考えや思いを発表し合える場時間を増やしたい。
	情操教育	自主学習の定着	・「つむぐ」の活用ができていますか。 ・放課後自習室の活用ができたか。	○「つむぐ」の時間に家庭学習計画をたてる習慣がついている。 ○放課後学習室の利用児童の取り組みの集中度が増している。一人になって行く児童が増えた。			○	・家庭学習の個別化を図る。個に応じた自主学習の内容をどう決めだしていくか。低学年は自主学習の例を出して、選択できるようにする。
学校運営	地域との連携	相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切にした相談を行い、支援につなげることができたか。	○心の教室相談員を中心とする子どもとの相談、子どもを取り巻く家庭、職員との支援会議に、時には外部機関関係者も交えて相談し、支援につなげた。		○		・2学期も相談週間を設定し、全児童が担任と1対1になって子どもの声を直接聞き取る。子どもの心に寄り添ったすばやく丁寧な対応を行う。
		情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	○学校の教育活動の方針や子どもたちの具体的な活動、連絡など。丁寧にわかりやすく、お便りで伝えるようにしている。 ●ホームページ更新が遅れがちである。			○	・ホームページ更新や事務室モニター更新が遅れがちである。計画的に行っていききたい。
		地域から学ぶ・地域の教育力の活用	・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	○米づくり、大豆づくり、シタケコマうち、武石川の学習等武石の環境を生かし、地域の方の支援を受けて学習ができた。 ●理科実験の準備や片付けなど地域の人材を活用したい。			○	・武石川をきれいにする活動を、地域に広めるためにどのように発信させていくか、現在子どもたちが思案中である。発信の方法を考えさせたい。 ・運営委員の皆様やコーディネーターの方に助言をいただく。
	研修	授業力の向上	・自己課題を持ち、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	○全校研究授業や係内研究授業、外部への公開研究授業を通して、研修し、それを活かして授業改善することができた。			○	・2.3.4年の実践から学ぶことができた。今後、小学校導入期や、中学校へ移行する1、5、6年の実践から学びたい。
組織		情報の共有・全職員による学び合い・支援	・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	○職員会では必ず情報交換するほか、何か問題があった時など全員で情報共有し、同一歩調でことに当たっている。			○	・職員会や学年会、研究部会だけでなく、日々のちょっとした時間での情報共有や助け合いを大事にしていきたい。また、支援員の先生方ともこまめに情報を交換したい。